

刊夕日九十月二十



刊日 定価一紙五銭... 発行所 常磐毎日新聞社

享樂主義の悲哀を知れ

立花 俊道

二、勞を厭はぬ精神を得よ

經濟學では、一方出来るだけ勞力を節約しながら一方出来るだけ大なる効果を擧ぐべきことを説くといふことですが、單にこの經濟學の教へばかりでなくこの種の勞力節説は現代人の心理に妙に響いては居ないかと私は思ふ。即ちなるべく働かずに、なるべく多くを得よう、出来ることなら勞する所なくして儲けようといふのであつて、勞して効なしとか、無駄骨を折るなんて、どんな場合だとして誰のためだとして厭なことだといふのが現代人心理ではなからうか。

によつては精神の勞作は相當に大きかつた筈である。

この身心兩方面に於て昔の人は現代人よりは勞することを厭はなかつた。昔時代で大金持になつた人、大學者になつた人たちの話を聞いて見ると、その心身の勞作は實に非常なものであつた。想像も又ばぬほど大きく、まるで無茶苦茶であつた。彼等は勞力の上は無用を節して有用に使ふな

【朝】味噌汁・ねぎ小付 數の子

【晝】新巻はりはり漬

【晚】湯豆腐・花かつを オイスター フライ レモン

どういふ功利的な名文句は知らなかつた。したがつてこれを實際に應用するなど夢にも思はなかつた。

これは勞力經濟の上或は能率計算の上事によると愚なる笑ふべき無駄をやつたのかも知れんが、彼等はこれによつて一の大なる收獲を納め得た、即ち身心の鍛練、身心の勞作を厭はないといふ精神を得たのである。下等動物は食物を探したり棲居を築いたりする上に、吾々の眼から見て至つて無

駄な骨折をして居る。斯うして骨折つた揚句、その一日又は一ヶ月の勞作の跡か一時に破壊されるやうなことがあつても彼は少しも憤慨もせず悲觀もしない。壊された次の瞬間にはもう再建事業に取りかゝつて居る。人間に比しては實に驚くべきほどの忍耐力である。この点に於ては吾々も少しこれ等下等動物に學ぶべき必要があると思ふ。

凡そ人生に於て徒らなる憤慨も感心されぬが、悲觀と失望とに至つて大の禁物である。「既往は問ふなかれ」といふ、特に未來に生きようとする青年諸君に取つて、過去を顧みつゝよくする態度は大々的禁物である。

世の中には累年の勞作が一朝にして破壊されたるやうなことは間々ある。粒々辛苦以上の辛苦によつて折角築き上げた家と財産とを一夜の火事にあつて失つたものでも先づ第一に思ふべきことはこの次は如何にして家と財産との復興を計るべきかといふことであらう。それには平生身心を相當に鍛練して、一朝不慮の出來事に直面した場合驚かず惶てざるやう精神を養ひ置くべき必要があるわけである。

木村病院

平町新川町十九 電話一六四番

山原醫院

平町・四町 電話二一四番

安齊科醫院

平町・田町 電話四七五番

二月二十日ヨリ

必ず御満足遊ばす、商品豊富!! 値!! 柄!! 全商品大奉仕 御贈答格安品!! 絹布思ひ切つた大提供!!

初春日衣裳大特賣

錦紗小紋と訪問着

御婚禮衣裳大提供

江戸棲 丸帯 錦紗小紋 御召羽二重紋付 袴地 御召二枚重

三井の歳暮大賣出し

越後 本場村山大島 秩父 銘仙 昭和三縮大島 レーヨン小紋 全足田端襦袢向 縮緬風呂敷箱入 モス着尺

破格品

二、五〇 五、八〇 三、〇〇 一、八〇 二、三〇 一、五〇 二、〇〇 二、八〇

三井吳服店

電話三八・二八四番

御披露

此程店舗擴張の爲め平町停車場通り(元ダイヤ堂跡)甲陽館向ひに移轉致しました何卒御愛顧御用命の程御願ひ致します

時報堂時計店

鯉魚節

御値段ハ御相談ノ上如何程にても御自由です。

日華生命保險株式會社代理店

穴戸屋商店

平町四丁目 電話(千部)二一五番 (鮮魚部)四〇七番

磐城共濟病院

(福島縣平町) 電話六四一(番) 電話六四二(番)

Table listing hospital departments and staff: 内科 (院長 石山謙), 小兒科 (部長 藤尚輔), 婦人科 (部長 黒澤廣), 産科 (部長 黒澤廣), 外科 (部長 大町久藏), 耳鼻咽喉科 (部長 大町久藏), 皮膚泌尿器病科 (部長 大町久藏), 花柳病科 (部長 大町久藏), 内科 (部長 大町久藏), 藥局 (局長 鈴木木寶雄)

耳鼻咽喉科専門

大和田醫院

平町南町一六(電話一七〇番)

景氣悲鳴

正月目がけて 流れ込む物資

平驛頭に大山小山 前年よりも大激増

慌しい年末に入ると平驛に到着する貨物は木材、鐵屑等が減少して反對に正月用期節物の鹽引、密柑、酒、茶等が日毎に増加して來るが此等節物の今月に入つて今日迄の十九日間に平驛に殺倒した數を見ると野菜二十四車六萬七千五百貫、密柑が十九車五萬七千四百四十貫、鹽引は十一車四萬一千七百六十貫、酒六車三萬九千九百九十六貫と云ふ大量振り此の大半を平町市民が消費して丁々譯々昨年より増加に較べ平均一日一車の増加を示して居り更に新正月に入ると郡部町村の舊正月用の品々が現在の二三倍になつて流れ込むので驛では正月氣分も味はへぬと此處はまた景氣に押されて悲鳴を上げて居る

大好況!

平商の卒業生

各方面から引張りタコ

平商業學校を來春集立つ卒業生の就職先は既報の如く軍需インフレの波に乗つて頗る好調に進んでゐるが今十九日まで決定した就職先は
安田銀行二名 三菱鐵業二名 同商事一名 瀧富商店二名 日本製鐵二名 大日本炭礦一名 昭和人絹二名
で目下詮衡中に屬し遅くも年内に決定見こみのものはエンバイヤ自動車會社

校長は語る

來春の卒業生の就職先は例年になく順調に進捗して居るがたゞ遺憾なのは地方商店會社の申込の少い事でこれは地方産業の爲に面白くない現象である、なるべくは地元で活躍する様希望して居る次第だがいろいろ事情で比較的申込が少い

黒澤書記

平檢事局監督書記黒澤清氏は此程賞勳局より勳八等瑞寶章を下賜された

勳八等に

平檢事局監督書記黒澤清氏は此程賞勳局より勳八等瑞寶章を下賜された

兵事々務研究の 機關を統一して

聯合會本部を平署に

役員の割當決定

平、植田、四倉三警察署聯合兵事々務研究會は昨十八日平署會議室に行はれたが各署管内町村に兵事々務研究會を夫々設けあつたのを統一して聯合會を組織する協議の結果、平、植田、四倉三署聯合兵事々務研究會と名稱し各警察署長、同兵事主任ならびに管内町村長兵事主任を以つて組織されるもので事務所は平署内に置き十二月十八日より施行決定したが役員割當左の通り
△會長 平警察署長 △副會長 植田警察署長 四倉署

酒井前教諭

出發日決定

既報繪畫精進のため警城高等女學校教諭を辭任し上京する酒井英吉氏は明二十日同校の告別式に臨み來る廿三日午前十時四十分發列車で上京することとなつたが同校職員俱樂部では今日送別並に新任中西教諭の歓迎會を催した

實る喜び

品評會入賞

上遠野、入遠野兩村聯合堆肥、苗代、二毛、品評會は廿二日午前九時より上遠野小學校で授與式を舉行することになつたが堆肥入賞者は四九名、苗代七名、二毛作六〇名、氏名左の通り
△堆肥(一等) 井澤誠一 荒川一郎(二等) 榎田定 下山田鶴松(外四名)(三等)

町内に 墓地を一纏め

小名濱の懸案を解決

小名濱町は來る二十六日午前九時から町會を開き永年の急案であつた町内各所に散在する墓地移轉の件及び町營魚市場埋立工事請負の件等を協議するが墓地の敷地は過般小名地内に新設した火葬場附近約一萬坪の土地を豫定して居る由

平商臨時雇員

採用考査

平郵便局の年賀便取扱の臨時雇二十五名を採用する爲め五十名に近い志願者に對し廿二日午前十時から樓上で地理及びメンタルテストの採用試験を行ふと

養鯉場を

愛婦が經營

湯本の資金造成策、本町愛國婦人分會は春回

來る廿一、二兩日同村小學校に開催廿三日表彰式を舉行する

平第三校の 奉祝子供日

平第三校は廿三日の皇太子殿下御降誕記念日を奉祝子供の日と定め當日は朝會の際國旗掲揚式、宮城遙拜式等に引續き各學級毎に奉祝學級會、書方展覽會、唱歌會等を催すと

平職業紹介所報告

人を求める方

- △外交員 卅才迄 給料歩合
- △ゲーム取見習 廿七才迄 月給五圓
- △炊事婦 四十才迄 月給六圓
- △女中 廿才前後 年給六十圓
- △運轉手 卅才迄 月給卅圓
- △トラック助手 廿才前後 月給十圓
- △線系本工 廿五才迄 日給一圓五十錢
- △出前特 廿才前後 月給六圓
- △料亭番頭 卅才迄 給料面談

職を求める方

- △集金人 卅四才 中三修
- △科理人 卅九才 尋卒
- △人絹職工 廿二才 高卒
- △鐵工 十七才 高卒
- △機械職工 十九才 高卒

同情箱にこめた

三少女の真心!

寒い街の辻角に立つて

集めた欠食兒童救済金

本社に附方依頼

平第二小學校兒童の滿洲出征兵士慰問の納豆賣美談が街のうわさとなつてゐる折柄昨十八日午後七時頃本社を訪れた可憐な女兒がある事情を聞くとこの三人は平第二校五年二組池上ヒデ子さん、中本キヨ子さん、國井正子さん達と去る十五日から四日間欠食兒童を救へとの文字入りの襷をかけ勉強の暇を見てはこの寒空に同情箱を携へて街の辻角に立つて集めた合計金三圓五錢を箱入りの儘持参し適當に寄附方を本社に依頼し來つた譯である、本社はこの純情に動かされ平町役場を通じて適宜方法を構ふことゝした

自動車の

交通量は

平町が縣下一

福島も遙かに及ばない

既報平土木監督所が去る一日より三日間縣下一齊に行はれた交通量調査の結果平町に於ける状況は一日平均乗用車五六六臺七、乗合二八八臺三、トラク三三四四臺四で同じく歩行者は一萬一千二百四十七人で自動車の使用は縣下の市街地福島郡山、若松の三大都市よりも遙に優位を占めて斷然縣下第一となつてゐるが平町に次ぐ第二位の福島と比較

御燈明の

寄進を飲む

磐崎村大字長孫藤田林次(三)は去る十月十三日湯本町惣善寺の廿三夜様へ御燈明を寄進すると湯本町一圓から寄附募集し比佐源造氏外廿二名から卅錢乃至五錢を詐取遊興に費消したと發覺逮捕された

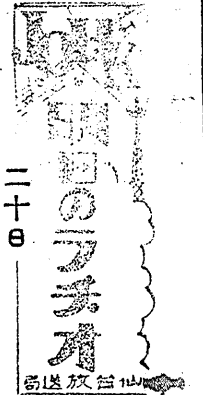
信榮の

降誕祭

平町材木町の信榮幼稚園は來る二十一日のクリスマスに催しとして午前十時から園内で祝祭を行ふが讚美歌に園長、生の挨拶あつて左記プログラムの遊戯や對話がある
クリスマス喜び 可愛らしき子供等 浦島太郎 孝行雀兵隊 夜襲 小鳥のお父さん お話し 木の葉のおどり お山のお家 星様神様 聖誕

高久村の會合

村農會並に男女青年團主催の農産物品評會は來る廿一



天 今明も明日も北
西の風晴曇半す

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間 童謡劇「お菓子の夢」名古
- 後六、二五 講演「ミトゲ」
- 後七、三〇 講演「昭和十年の展望」金融會森廣藏
- 後八、〇〇 擬音風景いろは歌 多岡本一平作
- 後八、三〇 寄席演藝 新

寝鎮た家の

風呂を浴る

天刑病患者が

暖を取る手段

戸外の風呂に御用心

寒い此の頃みなさんの御宅の風呂を狙ふ癩患者がおりますから御用心下さいとアルー十七日夜半平署草野刑事が折柄歳末期とて大物もがなと街へ密行に出かけ紺屋町地内某家の軒下につ

寒夜を徘徊する怪人

づくまる舉行不審の男を發見誰何の上進行せんとした處「逃げません」と哀願するのに向更不審に思ひ細

- 士石橋智信
- 前九、〇〇 家庭之モ
- 前九、一〇 料理献立「白菜の朝鮮漬」小林忠雄
- 前九、三〇 婦人の時間「望まじき今の女性」文學博士椎尾辨匠
- 後〇、〇五 箏曲「松竹梅」佐々木佐喜豊外「松風」菊地佐喜久外
- 後二、〇〇 第一部(東京)音樂「上野兒童音樂學園兒童」童話「大火車小火車」岸邊福雄(大阪)童話「お地蔵さま」胡蝶座
- 後二、四〇 第二部(大阪)音樂「大阪ラヂオオーケストラ」(廣島)木供風の狂言「紅葉狩」梶山幸男外(熊

本(唱歌)熊小學校五年男子兒童名古(對話)劇「おの鯉」金の城音樂童話(札幌)朗讀札幌師範學校附屬小學校兒童(仙臺)唱樂仙臺市南材木町尋常小學校兒童(東京)ラヂオアラエナイ今年のお話「東京コードモ會」後六、〇〇 子供時間「お話」新しい年賀状「中村亮平」

悪の快感に

水道の口金を抜く

平町水道部では先頃頻々として水道の口金コックが盗難にかゝるので犯人を注意してゐた處この程平署に平町北日町居住前科二犯叶田利也(三)が逮捕された取

逃げ込み犬が

詐欺の材料

玉川村大字住吉農勝木勝蔵(三)は同村西九一方所有土佐犬(時價百餘圓)が逸走行方を海まじ内郷村大字綴鈴木傳方に駆けこみゐるをこの程西丸から依頼されたところ詐稱勝木に廿圓で賣り飛ば

平驛弓道納會

平鐵道俱樂部は本月廿二日午前十時から同弓道で本年度弓道の納會を開く



(以上略)

悟道軒圓玉 (作) 丸尾至陽 (畫)

九、支度金二百兩

高木周藏はお花の境遇に同情して

周「兄さんが善くないために想ふ男と夫婦にもなれずこの浅草の水茶屋を出して客の機嫌を取つてゐるとはさて、氣の毒なことだ、と今度のことかまともまればヒュースケンから支度料としてまともつた金が出るであらう、その金で見さんと縁を切つたがよからう、血を分けた仲をさけといふのは無慈悲なやうであるが放蕩な兄貴を有つてゐるはお前さんも一生世に出ることも出来なからう」

花「私もその事は思つて居りますが、それに異人さんの面倒は見ますが三年たつたならば歸して下さい」

周「よしそれも話して置く世話を三年と」

花「異人さんも氣候や人情の變つたこの日本へ来て氣を慰める興さんもなく、子供衆もなければ故郷の夢ばかり見てゐるでございませう、それがお氣の毒ですからわたしがお世話をいたしませう」

周「よし、お前さんの心意氣も判つた、そこで」

とこれから酒をすゝめ土産物を持たせてお花を歸らした。こちらは麻布善福寺の旅籠にゐるヒュースケンお花がなんと答へたかと周の十時頃、歸つて来た高木ヒュースケン、あなたの戻りを待つてゐました、あの美しい女は何んといひましたか

「ついでに返事は明日の今ごろの萬梅にすることにしよ。この條件が成り立つか何うかは、千番に一審のかねあいだが、話して見よう」

周「まあお待ちください、条件付きですが承知しますか」

花「その条件とは何ういふことですか」

周「役目とはいひながら、



せんがどうぞよろしく申しとおくんなさい」

周「お前さんのいつた事は残らず打明けてヒュースケンの意向を聞くこととするもう話は済んだ、まあ一つお上り」

なたは氣候風俗を異にしたこの日本にお出になつて職務を執り頭をつかふ、とこそであなをなぐさめる奥様もなければ子供衆も居らぬ、それを察するとお氣の毒であるか、お世話を

とかうお花は申しましたが肉を賣ることは出来ない、ヒュースケンこれを聞くとな妙な顔をして

花「お寢間のお伽は出来な、これが承知ならば何のお世話も致すとのことまたあなたのお側にゐるは三年三年経つたならばひまをせしれと申して居ります、何うですなこの条件を背き入れますか」

ヒ「ハアむづかしい条件を出しましたな」

とヒュースケン考へてゐたが

ヒ「よろしい、この条件を許しませう」

周「さうですか、それならばお花はこちらへ上りませうか」

といつてアハ、ハ、と笑つた周藏もニツコリ笑ひ

周「その条件を撤回させるのはあなたの手腕にありませう、とところで支度料をやつてくださる、金をやつて下さい」

ヒ「ハイ承知しました、これではよろしいか」

と百兩出した周藏はこの金を見て

〇「もう百兩ください」

翌日の午後四時頃淺草寺境内、萬梅へ出て来てお花を尋んでヒュースケンが条件を容れ且支度料として二百兩を渡した

花「ありがたうございます、これで兄との縁を切つて異人さんのお手許に上ることには致しませう」

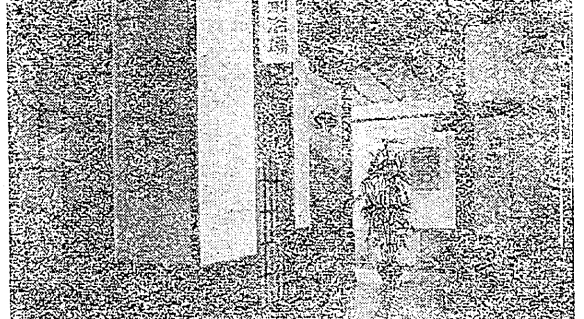
〇「ところでお花さん、お前さんにはいひ交した男があるとのこと其方に渡りをつけずばなるまい」

花「そ、人には兄との縁を切るために一時異人さんのところへ行くといふ事を申して、三年たてば一緒になると堅い約束をして置きます」

〇「さうか、これに就て金が必要ならばもう百兩位は持つて見せるか」

とこゝろ周藏が言つたお花は二百兩の受取を書いて高木に渡した。

忘年会 御宴會



毎度格別、御最負いたゞき難有く御禮申上げます

松印	3.50	御會席七品付(外果物御飯香物) 共一式
竹印	3.00	御會席六品付(外果物御飯香物) 共一式
梅印	2.50	御會席五品付(外果物御飯香物) 共一式

但十人様以上ノコト 藝妓五人様毎ニ 人二名(松印ニ限リ半玉十人様ニ一人付) 御酒ハ御一人銘酒 本ツ、ノコト

小瀧鑛泉 瀧の湯旅館 電103番 割烹部

サービス自動車

團體廿人以上にはお迎ひの自動車を差上げます。(北は平町、南は船町まで)

〇「さうか、これに就て金が必要ならばもう百兩位は持つて見せるか」

とこゝろ周藏が言つたお花は二百兩の受取を書いて高木に渡した。

宮行 直通は二丁目尼子自動車部より發車いたします 平町二丁目 電話六四〇番

皆様の足?

尼子タクシーへも豆タクが入りました

御立關から玄關へ 迅速簡便 是非御利用を